

誕生月間イベント報告

こども学び教室 「身近な素材でちぎり絵をつくろう」

2026年2月28日(土)

新聞や折り紙、雑誌などの身近な素材で「ちぎり絵」を体験するイベントを開催しました。紙だけでなく、どんぐりやビーズも貼り付けて楽しい作品が出来上がりました。

ちぎり方で色の見え方や繊維の様子が変わり、表現の幅が広がるちぎり絵は、手指や想像力に良い刺激を与えます。子供から大人まで楽しめる遊びとして、お家でも体験してみたいかでしょうか。
(美術工芸担当：村上)



こども学び教室 「半導体教室～こんなところにも半導体!～」

2026年2月23日(月・祝)

「産業の米」と呼ばれる半導体。性質や用途についての説明を聞いた後、半導体素子を材料に用いたトランジスタやダイオードを使って、LEDを点灯させたり音を鳴らしたりする回路作りの体験をしました。

参加のみなさんは半導体の汎用性の広さに驚き、身の回りの様々なものに活用されていることを楽しく学んでいました。
(教育連携担当：松下)



活動紹介

金峰山情報ボード、リニューアル!

常設展示室2階の生物展示エリアでは、「金峰山の多様性」をテーマに哺乳類や鳥類のはく製、昆虫や植物の標本などを多数展示しています。そこに設置している金峰山系情報ボードでは、標本だけでは伝えきれない生きものたちの情報を紹介しています。これまでは、赤外線カメラに映った動物や、花期が短い、たまにしか出会えないといった植物の写真などを紹介していました。

今回はその内容を一新、「今」見られる生きものたちをテーマに季節の昆虫や草花などを紹介しています。標本と情報ボードを見たあとにフィールドに出かけたら、きっと楽しさ倍増! 新たな気づきや発見につながるかもしれません。博物館を活用しつつ、身近な自然を楽しんでみてはいかがでしょうか。今後も続々と更新していきます。
(植物担当：山口)



熊本博物館
KUMAMOTO CITY MUSEUM

くまはく NEWS LETTER Vol.16
発行 熊本博物館
〒860-0007 熊本県熊本市中央区古京町3-2
TEL. 096-324-3500 FAX.096-351-4257
<https://kumamoto-city-museum.jp>



くまはく NEWS LETTER

Vol.16

2026 年度 夏季特別展

「氷の大陸 南極展」

2026 年 7 月 18 日 (土)～9 月 6 日 (日)



①

■ 特別展案内

夏季特別展「氷の大陸 南極展」

■ 特別展報告

冬季特別展「八雲とセツ 家族の物語」

■ 企画展報告

「あなたのそばにエイリアン!?—身近な外来生物—」
「熊本地震 10 年展～今、語りかけるもの～」

■ 講座報告

古文書講座

■ 誕生月間イベント報告

子ども学び教室「身近な素材でちぎり絵をつくろう」
子ども学び教室「半導体教室～こんなところにも半導体!～」

■ 活動紹介

金峰山情報ボード、リニューアル!

画像提供「国立極地研究所」
①コウテイペンギン
②ウェッデルアザラシ

熊本博物館
KUMAMOTO CITY MUSEUM

2026 年 6 月

②

特別展案内

夏季特別展 「氷の大陸 南極展」

2026年7月18日(土)～9月6日(日)

「南極」は地球の最南端に位置し、厚い氷で覆われた厳しい自然環境でありながら、地球の歴史や環境を知るうえで重要な手がかりを与えてくれる場所です。多くの探検や観測が行われている南極には、知られざる人類の挑戦の歴史と豊かな自然が息づいています。

本展覧会では、日本人で初めて南極に挑戦した白瀬南極探検隊にまつわる資料をはじめ、南極に生息するペンギンやアザラシなどの剥製、クジラなどの骨格標本、第1次南極地域観測隊や昭和基地にまつわる資料など多種多様な南極の姿を紹介します。また、本年度は白瀬隊が南極に到達して115年、第1次南極地域観測隊が南極での調査を開始して70周年の節目の年でもあります。ぜひこの夏、南極展にお越しいただき、南極の壮大な姿を感じていただきながら、地球環境について考えてもらうきっかけになると幸いです。

会期中は南極の気温を体感できたり、南極の氷をさわれたりと体験型コンテンツもご用意しております。

(保存科学担当：坂本)

南極観測船「宗谷」
提供：国立極地研究所コウテイペンギン
提供：国立極地研究所

特別展報告

冬季特別展 「八雲とセツ 家族の物語」

2025年12月2日(火)～2026年2月15日(日)

本展は熊本市とも縁深い小泉八雲とその家族を紹介し、顕彰する目的で行った展覧会です。令和7年12月2日から令和8年2月23日(当初は2月15日、会期延長)まで開催しました。当初想定したほどの入場者数は記録できませんでしたが、1万を超す方々にご観覧いただきました。本展が本市で3年を過ぎながらも市民には縁遠かった八雲をすこしでも身近に感じていただく機会となったことを期待します。

NHK連続テレビ小説「ばけばけ」の展示ゾーンや松江市の小泉八雲記念館との2館連携開催なども行い、SNSでの発信のいくつかが数万から20万程の閲覧数を数え、熊本博物館の存在を多くの方に知っていただく機会になったものと考えます。入場者の感想も好意的であり、小泉凡氏・祥子氏を招いた講演会は満員(250名以上)、展示解説には各回50～100名近い人が訪れました。これを機会に本市での八雲への顕彰や研究が盛んになることを願っています。

(民俗担当：)



展示解説風景

企画展報告

あなたのそばにエイリアン!?—身近な外来生物—

2025年9月23日(火・祝)～11月24日(月・祝)

外来生物はすべて命を持った生きもの。悪者扱いされがちですが、それを生み出したのは私たち人間であり、簡単な問題ではありません。担当者は主に生態学的観点をもとに信念を持って外来生物と接していますが、立場が違えばものの考え方も違い、100%正しいことなどありません。外来生物の問題においては、観覧者それぞれが自ら考えてもらうことが大事だと考え、今回の展示では生態の解説や身近な自然で起きていることの紹介など客観的な情報の提供にとどめ、博物館としての考え方を押しすぎないよう心がけました。期待どおりの感想もたくさん寄せられ、外来生物の問題を身近なものと捉えていただくことに少しは貢献できた気がします。

(動物担当：清水)



熊本地震10年展～今、語りかけるもの～

2026年3月24日(火)～5月17日(日)

平成28年熊本地震は、震度7の激震が2度発生するという未曾有の大地震でした。あれから10年が経ち、震災の記憶や危機感が薄れていく中、改めて熊本地震を振り返り、記憶を風化させないことは、被災地に立つ博物館の重要な役目と考え、本展の開催に至りました。

具体的には、地震発災当時の様子を市役所の各部署、自衛隊、警察、赤十字病院等、関連各所のパネル展示や県内各メディアの映像・音声等で振り返ることにより、当時、どこでどのような被害が発生し、どのような活動が行われたのかを明らかにするよう努めました。おかげさまで、多くの来場者が写真や映像の前で足を止めて見入っている姿に、本展開催の意義を感じ取ることができました。今後も市民の防災意識の向上にお役に立てるよう努力したいと思います。

(地質担当：西田)



講座報告

古文書講座

令和7年度古文書講座は、「実践編」として全6回開講しました(定員30名)。テキストは肥後細川家初代藩主・細川忠利の事跡をまとめた、「忠利公御年譜 全」(写本。一般財団法人熊本城顕彰会寄託)を取り上げました。

読み進めていくうち、当時の「老人共」(忠利に直接接したことのある家臣たち)の話として忠利が花畑屋敷の広間でゆったりと過ごしていたこと、食事後は楊枝をくわえながら家臣たちと会話していたことなど、意外なエピソードが記されていました。

令和8年度の古文書講座も引き続き「忠利公御年譜」を読み進めていく予定です。

(歴史担当：木山)

